

授業概要

社会心理学は、個人と社会状況との間の相互的な影響関係及び人々の心や行動への社会的影響を解明する学問である。社会心理学 I では、傍観者実験、同調実験など古典的な研究と発展的な研究を扱い、社会現象のメカニズムやプロセスを科学的に考察する能力の育成を目指す講義をする。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	社会心理学とは何か：マイクロ-マクロアプローチ
第 3 回	社会心理学とは何か：適応的視点
第 4 回	実験法と傍観者効果
第 5 回	社会的促進と同調
第 6 回	認知的不協和と集団意思決定
第 7 回	観察学習、フットインザドア、基本的な帰属のエラー
第 8 回	模擬刑務所実験・アイヒマン実験・吊り橋実験
第 9 回	囚人のジレンマのコンピュータシミュレーション
第 10 回	態度、ヒューリスティック
第 11 回	社会的アイデンティティ、バランス理論、内発的動機づけ
第 12 回	表情の認知、対人魅力、対人認知
第 13 回	ラベリング効果
第 14 回	関係の形成や維持、共感
第 15 回	まとめ
第 16 回	筆記試験の実施

到達目標

- ・社会心理学における古典的で有名な実験研究に関する座学授業や実習体験を通して、社会心理学分野における基礎的な知識を習得することができる。
- ・日常にある社会現象に着目し、どのようなメカニズムやプロセスによって生じているのかを科学的に考察できる能力を修得させ、洞察力や社会問題解決力、自発的に考える能力を延ばすことで、共生型社会を生き抜く人材育成を目指すことができる。

履修上の注意

- ・社会心理学 II も併せて履修することが望ましい
- ・授業資料は教員が作成するため、テキストは必ずしも購入する必要はない。

予習復習

- ・予習では授業に関連することを事前に調べておくこと。また、参考資料の該当箇所に目を通しておくこと。
- ・復習では授業資料に隔々にまで目を通し、内容を吸収すること。また、各授業回において、扱った内容を補足する参考資料を紹介するので、読んで理解しておくこと

評価方法

- ・平常点：45%（授業の参加度や提出物の内容）
- ・筆記試験：55%（選択肢問題と記述問題の総合点）

テキスト

- ・山岸俊男, 2011, 徹底図解 社会心理学—歴史に残る心理学実験から現代の学際的研究まで, 新星出版社
- ・亀田達也・村田光二, 2010, 複雑さに挑む社会心理学 改訂版—適応エージェントとしての人間, 有斐閣